



十一月 (小) 霜月 昴宿

十一月八日立冬の節より
月命丁亥五黄土星の月
暗剣殺なし

旧 九月大
新 十月小

●朔日朔月のことで、新月を指す

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮	
1日	日	かのと	七赤	灯台記念日、教育文化週間、新米穀年度、計量記念日 旧九月大	廿	佛滅	あやぶ	房	天おん	6.02	16.47	21.12	10.32
2日	月	みづのえうま	六白	唐津くんち、三隣亡、一粒万倍日	廿一	大安	なる	心	神よし	6.03	16.46	22.09	11.20
3日	火	みづのどひじ	五黄	文化の日、下弦二時二四分、明治神宮例祭、東京足立血沼不動万灯祭、消費者センター開設記念日、十方ぐれ入り	廿二	赤口	おさん	尾	天おん	6.04	16.45	23.05	12.03
4日	水	きのえさる	四緑	消費センター開設記念日、十方ぐれ入り	廿三	先勝	ひらく	箕	大みう	6.05	16.44	23.05	12.03
5日	木	きのと	三碧	一の酉、一粒万倍日	廿四	友引	とづ	斗	神よし	6.06	16.43	23.05	12.03
6日	金	ひのえいぬ	二黒	不成就日	廿五	先負	たつ	牛	母倉	6.07	16.42	23.05	12.03
7日	土	ひのど	一白		廿六	佛滅	のぞく	女	大みう	6.08	16.41	23.05	12.03
8日	日	つちのえね	九紫	立冬二時五九分、世界都市計画の日、京都嵐山紅葉祭、京都伏見稲荷火焚祭、京都東也堂開山忌、ふいご祭	廿七	大安	のぞく	虚	くま日	6.09	16.40	23.05	12.03
9日	月	つちのとうし	八白	一一九番の日、太陽暦採用記念日	廿八	赤口	みつ	危	くま日	6.10	16.39	23.05	12.03
10日	火	かのえとら	七赤		廿九	先勝	たいら	室	大くわ	6.11	16.38	23.05	12.03
11日	水	かのと	六白	世界平和記念日、京都松尾大社上卯大祭	卅	友引	さだん	壁	神よし	6.12	16.38	23.05	12.03
12日	木	みづのえたつ	五黄	朔二時四七分 旧十月小	朔	佛滅	とる	奎	大みう	6.13	16.37	23.05	12.03
13日	金	みづのとみ	四緑	天一天上	二	大安	やぶる	婁	だう日	6.14	16.36	23.05	12.03
14日	土	きのえうま	三碧	秋の全国火災予防運動(9日~15日)	三	赤口	あやぶ	胃	神よし	6.15	16.35	23.05	12.03

全国的な秋晴れはこの月に多いが、別称「霜月」といふように、北のほうから寒冷前線が下がってきて、局的には天候が悪化したこと、月半ばには霜が降りることがある。

立冬がすぎると、駆け足で冬がやってくる。健康上や家事の上で冬を迎える準備に怠りがないようにチェックしよう。

〔注〕十五日は「七五三」の宮詣りの日である。両親に連れられて、氏神様や名のある神社に参拝する日であるが、この「七五三」の慣行は歴史的にはそんな古くはない。しかし女の子七歳(帯結び)、男子五歳(祝い(袴着け))は、それぞれ独立して格式高い家庭で行われていた。また、男児、女児の三歳は乳幼児期を無事に過ぎ、少年期へ成長するわが子に対する親心の現れである。本来、わが子の息災と加福を祈る素朴な祈願が、近時はやたら

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮	
15日	日	きのとひつじ	二黒	七五三、本州・四国・九州一般鳥獣狩猟解禁、不成就日	四	先勝	なる	昴	大みう	6.16	16.35	23.05	12.03
16日	月	ひのえさる	一白		五	友引	おさん	畢	●	6.17	16.34	23.05	12.03
17日	火	ひのど	九紫	将棋の日、奈良談山神社例祭、二の酉、市川中山法華経寺御会式、一粒万倍日	六	先負	ひらく	觜	十し	6.18	16.34	23.05	12.03
18日	水	つちのえいぬ	八白	一粒万倍日	七	佛滅	とづ	参	くま日	6.19	16.33	23.05	12.03
19日	木	つちのとら	七赤	●上弦一五時二七分、一茶忌、旧亥の子餅、炉開き、三隣亡	八	大安	たつ	井	くま日	6.20	16.32	23.05	12.03
20日	金	かのえ	ね六白	鳥根出雲大社神迎祭、とおかんや、京都東本願寺報恩講(28日迄)、近松忌	九	赤口	のぞく	鬼	くま日	6.21	16.32	23.05	12.03
21日	土	かのと	五黄	豊川稲荷秋季大祭	十	先勝	みつ	柳	五む日	6.22	16.31	23.05	12.03
22日	日	みづのえとら	四緑	●勤労感謝の日、小雪○時二五分、不成就日、熊本八代妙見祭、笠間稲荷神社秋祭	十一	友引	たいら	星	大みう	6.23	16.31	23.05	12.03
23日	月	みづのとう	三碧	熊本八代妙見祭、笠間稲荷神社秋祭	十二	先負	さだん	張	天火	6.24	16.30	23.05	12.03
24日	火	きのえたつ	二黒	神道修成派教祖教霊大祭	十三	佛滅	とる	翼	大みう	6.25	16.30	23.05	12.03
25日	水	きのと	一白	神道修成派教祖教霊大祭	十四	大安	やぶる	軫	大みう	6.26	16.30	23.05	12.03
26日	木	ひのえうま	九紫	○望七時四四分	十五	赤口	あやぶ	角	神よし	6.27	16.29	23.05	12.03
27日	金	ひのどひつじ	八白	税関記念日、東京品川千体荒神大祭、防府天満宮操坊祭、潮鷲聖人忌	十六	先勝	なる	亢	●	6.28	16.29	23.05	12.03
28日	土	つちのえさる	七赤		十七	友引	おさん	氏	●	6.29	16.29	23.05	12.03
29日	日	つちのとら	六白	三の酉、一粒万倍日	十八	先負	ひらく	房	十し	6.30	16.28	23.05	12.03
30日	月	かのえいぬ	五黄	一粒万倍日	十九	佛滅	とづ	心	大みう	6.30	16.28	23.05	12.03

に華美におごり、お祭り事になり、虚栄の観が強いのはどういふものか。

〔祭〕三日は「文化の日」、戦前は四大節の一つで「明治節」といって、明治天皇の誕生日である。その遺徳をたたえ文明・文化の記念日として各地で行われている文化事業の催しが行われる。戦後、憲法の改正があるて呼称は変わった。

二十三日は「勤労感謝の日」で、勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう日と制定されている。

この月の干支(えと)による酉の日は「お酉さん」とも「酉の市」ともいって、(おおとり)明神の祭礼が行われる。開運の神として一の酉、二の酉、三の酉、と盛大であるが、三の酉までである年は、活気がありすぎて火事が多いといひ伝えられている。

この月の九日は「太陽暦採用記念日」である。これまでしばしば旧暦といふ言葉がでてきたが、いま現在われわれが使っている何月何日という暦は、明治五年の十一月九日に採用された太陽暦以来である。